

令和5年7月24日

令和4年度 遠隔教育特例校の実施状況等について

北海道		
学校名	管理機関名	設置者の別
幌延町立問寒別中学校	幌延町教育委員会	公立

(1) 遠隔による授業を実施した教科名

(社会科、英語科、道徳科)

(2) 遠隔による授業を実施した時数

【社会科】

第1学年 実施時数(116)時間／当該教科の年間総授業時数(120)時間
実施期間中の実施頻度(週)に(3)回程度

第2学年 実施時数(112)時間／当該教科の年間総授業時数(122)時間
実施期間中の実施頻度(週)に(3)回程度

【英語科】

第1学年 実施時数(145)時間／当該教科の年間総授業時数(150)時間
実施期間中の実施頻度(週)に(4)回程度

第2学年 実施時数(142)時間／当該教科の年間総授業時数(154)時間
実施期間中の実施頻度(週)に(4)回程度

【道徳科】※参考

第1学年 実施時数(25)時間／当該教科の年間総授業時数(35)時間
実施期間中の実施頻度(週)に(1)回程度

第2学年 実施時数(30)時間／当該教科の年間総授業時数(35)時間
実施期間中の実施頻度(週)に(1)回程度

(2) 配信側生徒人数

(実施教科) 1クラスあたりおよそ(16、21)人

(3) 受信側生徒人数

(実施教科) 1クラスあたりおよそ(2、1)人

【学校評価（受信校教職員）】

○子どもの教育環境及び活動の充実が図られている。

- ・生徒が専門の教員による授業を受けられている。
- ・英語科：コミュニケーション活動が充実している。
- ・社会科：配信側の画面共有等の工夫により対面同様の授業となっている。遠隔であっても生徒が配信側教員に質問するようなやり取りができている。
- ・免許外（専門外）の授業準備の負担が軽減されている。

【学校評価（配信校教職員）】

- ・受信側、配信側の生徒同士で遠隔でのコミュニケーションの方法を工夫する等、情報活用能力の育成に繋がっている。
- ・遠隔の授業と対面の授業の負担感の差は殆どない。
- ・町内の子どもの学習活動の充実に関心していると感じている。

【生徒アンケート（受信校）】

- ・配信側の生徒と一緒に楽しく授業を受けられている。
- ・対面で合同学習だけでなく配信側の生徒と交流できることが楽しい。
- ・英語の先生（専門）がいないので、遠隔で授業を受けられるのはよいが、対面の方がやりやすい。
- ・音がずれて聞きづらいことがある。
- ・パソコンの調子が悪いと先生の声が止まったり、受信側から話しても声が届いていなかったりすることがある。

【生徒アンケート（配信校）】

- ・遠隔でも受信側の生徒の意見を聞いたり、伝えたりすることができている。
- ・遠隔でもグループ活動ができている。
- ・遠隔によって実際には配信側の教室にいないが、一緒に授業を受けているのと同じように仲良くでき、教え合えるのがよい。
- ・毎時間一緒に授業を受けているため、対面授業のときに話しやすくなってよい。
- ・学校外の人意見を聞けるため、授業の中で参考になり、同じ学校の生徒同士よりも受信校生徒がいると意見交流ができよい。
- ・同じクラスメイトのように同じ授業を受けられ、意見の交流ができるので、続けることで、学習の意欲が上がる。

【受信学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解】

- ・学校運営協議会等で報告、保護者からは、専門教員による授業を受けられていること等の子どもの教育環境及び活動が充実していることに肯定的な意見があった。
- ・北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターによる遠隔教育及び遠隔特例校の研修動画が公開予定